

[成果情報名]鉢花シーマニアの開花促進技術

[要約]シーマニアの開花は、挿し木を4月に行い、その後、最低夜温を18℃で管理すると9月下旬に開花する。さらに早めるためには、親株養成時の最低夜温を18℃で管理し、3月に挿し木を行うと9月上旬に開花する。

[キーワード]鉢花、シーマニア、開花促進

[担当]山梨総農試・高冷地分場・花き花木科

[連絡先]電話0551-20-2050、電子メール koureichi@pref.yamanashi.lg.jp

[区分]関東東海北陸農業・花き

[分類]技術・参考

-----  
[背景・ねらい]

シーマニア(*Gloxinia sylvatica*)は、シクラメン補完品目として栽培されている。しかし、慣行栽培(加温温度10℃、4月挿し木)では、開花のピーク(10月上中旬)がシクラメン管理作業の多忙期と重なるため、開花期の前進が望まれている。そこで、開花促進を図るため、挿し木後の加温温度や挿し木時期等について検討する。

[成果の内容・特徴]

1. 4月に挿し木を行い、その後の加温温度を18℃で管理すると、開花期が9月下旬に早まる(表1)。
2. 親株養成時の加温温度を18℃にすると3月に挿し穂が確保できる(表2)。
3. 3月に挿し木を行い、挿し木後の加温温度を18℃で管理すると開花期が9月上旬とさらに早まる(表3)。

[成果の活用面・留意点]

1. 根の発育が旺盛なので、挿し木は大きめのセルトレイ(72穴程度)を使用し、鉢上げは3.5号ポットを使用する。
2. 鉢上げ後は追肥としてIB化成などの置き肥(窒素成分0.4~0.6g/l)を45日間隔で行い、生育を見ながら液肥で補う。

[具体的データ]

表1 加温温度と挿し木時期が開花に及ぼす影響

加温温度 ( )	挿し木時期	開花日 <sup>z</sup>	小花数 (個)	草丈 <sup>y</sup> (cm)	株張り <sup>x</sup> (長径×短径) (cm)
10	4月	10/2	244	20.4	22.2×20.9
	5月	10/8	199	17.5	17.7×16.9
18	4月	9/20	198	23.1	22.5×21.5
	5月	10/7	191	18.9	18.4×17.7

z：開花日は第1小花が開花した日の平均  
y、x：開花日に測定

加温処理期間：挿し木～6月30日  
親株養成時(11月30日～挿し木時期)加温温度：10  
用土：調整ピート  
鉢上げ時期：挿し木の約50日後

表2 親株養成時の加温温度が挿し穂の採取時期と本数に及ぼす影響

加温温度 ( )	月別採取本数(本/株)			合計
	3月22日	4月18日	5月16日	
10	0	32.5	32.7	65.2
18	10.6	28.6	26.2	65.4

処理期間：11月30日～挿し木時期  
挿し穂：新梢が5cm伸びたもの

表3 挿し木時期が開花に及ぼす影響

挿し木時期	開花日 <sup>z</sup>	小花数 (個)	草丈 <sup>y</sup> (cm)	株張り <sup>x</sup> (長径×短径) (cm)
3月	9/7	214	27.7	27.0×26.4
4月	9/19	197	22.6	22.5×21.5

挿し木～6月30日までは18 加温  
z、y、x：表1参照

用土：調整ピート  
鉢上げ時期：挿し木の約50日後

[その他]

研究課題名：シーマニアの栽培改良

予算区分：県単

研究期間：2003～2005年度

研究担当者：長谷川茂人、小牧祐子、三宅ひろみ、堀内浩明

発表論文等：